



東京2025デフリンピックで
銅メダル

川眞田 結菜 さん

かわまた・ゆうな
西の里中学校3年。
5歳の時、父親の勧めで水泳を始めた。
生まれつき耳に障がいがあり、人工内
耳を装着して生活している。令和7年
11月15日に開幕した聴覚障がい者の国
際スポーツ大会「東京デフリンピック」
に出場し、銅メダルを獲得した。



デフリンピックで銅メダル

令和7年11月15日〜26日に開催さ
れた聴覚障がい者の国際スポーツ大
会「東京2025デフリンピック」。
国内最年少選手として出場した川眞
田さんは水泳の女子4×100mメ
ドレーリレーで銅メダルを獲得した。
第一泳者として背泳ぎを担当し、自
身が泳ぎ終えたときチームの順位は
5位だったが、その後の選手たちが
追い上げ、銅メダルの結果となった
ことに驚いたと振り返る。

デフリンピックは、オリンピック
と同様4年に1度開催される国際大
会。競技のルールはオリンピックと
ほぼ同じだが、スターターピストル
や審判の笛の代わりに、フラッシュ
ランプや旗を用いるなど、耳の不自
由な選手のために視覚的な配慮がな
されている。

川眞田さんは令和7年4月に静岡
県で行われた全国大会で好成績を収
めたことが評価され、今大会への出
場が決まった。

5歳から水泳を本格的に始めて

父親は学生時代スポーツを専攻し
ていて水泳は基礎的な運動能力を高
めると考え、将来やりたいスポーツ
が見つかるまで続けてほしいと思
いから娘に勧めたことがきっかけ。

個人種目でもメダルを取りたい

札幌市内の水泳クラブで週5回ほど練
習を続け、1回の練習で3千〜5km
を泳ぐそう。体力をつけるための日々
の練習をつらいつ感じるときはほとん
ど無く、むしろ泳いでいるときはリラ
ックスできるそう。合宿では大会を
想定した練習になるため更に泳ぐ量
が増え、少し大変だと話してくれた。

次の大会に向けて

将来の夢は美容師になることで、
元々美容師の仕事に興味があり、周
囲の人に喜んでもらえることが好き
なことから、その道を目指している。

直近の目標は2年後に開催される
世界大会で5位以内に入ること。令
和11年に開催される次回のデフリン
ピックにも挑戦したいと意欲を見せ
る。団体だけでなく個人でもメダル
を獲得したいと抱負を語った。「応援
してくださることがとてもうれしい
です。これからも目標に向けて頑張
つていきます」と皆さんに向けてメ
ッセージも話してくれた。

目標を掲げひたむきに努力を続け
る川眞田さんの今後に注目したい。



デフリンピックで、
スタート直前の川眞
田さん

*フラッシュランプ…光の合図でスタートを知らせる機器